

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	2072300243		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	グループホームグレイスフル下諏訪		
所在地	長野県諏訪郡下諏訪町9310番地 (電話) 0266-26-8878		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年3月10日

【情報提供票より】 (平成21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 4月 8日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての ~ 1階部分		
------	-------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費日額400円(冬季950円)
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2	要介護2	6
要介護3	1	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 83.3 歳	最低 67 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・諏訪赤十字病院 ・市立岡谷病院 ・諏訪共立病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中山道と甲州街道が出会う諏訪大社といで湯の宿場町・下諏訪の諏訪湖を南に望む高台にホームが建っている。明治・大正時代のアララギ派の歌人島木赤彦の茅葺き屋根の自宅「柿蔭山房」もすぐ近くにある。ホームは同じ法人が運営する老人保健施設や特別養護老人ホームなどの複合施設からはやや離れてはいるものの、関連施設の慣れ親しんだ雰囲気から入居する方も多く、逆に施設サービスへの移行もスムーズで本人や家族にとって安心できる環境が整えられている。入居者は中学生をはじめ多くのボランティアとの交流で刺激を受けたり、出たい時にいきたい所へと自由に出かけている。花見など四季折々に行われる名所旧跡へのドライブも楽しみとなっている。職員を育てる仕組みとして目標管理システムが導入されており、資格取得も含め職員の向上心は非常に強い。法人長野エリアのQC活動も盛んで、年に一度の発表会に向けて職員全員で取り組んでいる。「ケアチェック・ケアカンファレンス表」がきめ細かい構成で、問題点の把握から改善へむけての過程も明確で、変化の兆しへの予防や新鮮な目での見直しに繋がっている。介護計画書の援助目標の欄も実現可能な表現で具体的に記入されており、モニタリングも毎月実施されている。入居者本人がより良く暮らし続けるための創意工夫が随所に見られるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善項目については積極的に取り組まれた。介護計画作成のためのカンファレンスには家族にも参加して頂くように呼びかけ、意向・要望を聞いている。地区の大々的な協力を得た防災訓練等にも繋がっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホームの事業計画や職員の目標管理項目として改善を要する項目が取り上げられ、具体的に行動に移している。今回評価も職員各自へのアンケートという形で全員参加し、自己評価としてまとめられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。入居者、家族、前区長、介護相談員、行政担当者、ホーム職員で構成されており、ホームからの報告に貴重な要望や意見を頂ける双方向の会議となっている。行政担当者からの提案や介護相談員の方からの的確なアドバイスも頂いている。貴重な意見・要望等は職員間で話し合い、サービスの向上のために役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	健康状態や日々の様子は家族の来訪時や電話等で伝えられ、毎週訪れる家族や1ヶ月に1回来訪する家族と色々ではあるが職員は親しみやすく話しやすい雰囲気を作っている。家族会はないが新年会等、家族が集まる際に話し合いもしている。介護相談員と入居者との面談の報告書が寄せられており、職員も必ず目を通し運営に役立っている。また、第三者委員会も設置されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の行事について情報を集め、隣の神社の祭りに参加するなど積極的に取り組んでいる。中学生や童謡の会、手品、フラダンス等、多くのボランティアとの交流もある。昨年春には地元区役所の役員、消防団、日赤奉仕団、消防署の協力を得てホーム独自の防災訓練を実施し、それ以降関係者との行き来も頻繁になり地域との交流が更に深まっている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を掲げており、それに基づいてホームの事業計画が策定されている。法人の理念には「地域とともに」、「安心な街づくりに貢献」、「地域社会の変化と改革の先駆者」等の文言が盛り込まれており、事業所と地域との連携強化を謳っている。	○	家庭的な環境で地域との交流も広がっており現状でも地域密着型サービスとして十分な役割を担っているが、機会があればグループホーム独自の理念を職員全員で検討されることを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に法人理念を掲示し、出勤時や会議の冒頭に確認することにより意識付けがされている。職員も理念を実践に移しており、入居者の尊重や入居者の立場に立っての支援を平易な言葉で語る事ができた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事について情報を集め、ホームの隣の神社の祭りに参加するなど積極的に取り組んでいる。中学生や童謡の会、手品、フラダンス等、多くのボランティアの来訪がある。同じ法人が運営する併設の特養、老健の利用者と一緒に中学校の文化祭にも招待を受けている。昨年春には地元区の役員、消防団、日赤奉仕団、消防署の協力を得てホーム独自の防災訓練を実施し、それ以降更に地域との交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価での改善項目については積極的に取り組まれており、地区の大々的な協力を得た防災訓練等に繋がっている。改善を要する項目はホームの事業計画や職員の目標管理項目にも取り上げられている。今回評価も職員各自へのアンケートという形で全員参加し、自己評価としてまとめられた。		

グループホームグレイスフル下諏訪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、メンバーの集まりやすい午後7時から開催されている。入居者、家族、前区長、介護相談員、行政担当者、ホーム職員で構成されており、ホームからの報告に貴重な要望や意見を頂ける双方向の会議となっている。貴重な意見・要望は職員間で話し合いサービスの向上に役立っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症介護予防教室の委託を併設施設と合同で町より受けている。管理者が併設施設職員と共に役場庁舎や併設老健で講師として運営に関わっている。町の介護相談員の受け入れも行っており、併設施設も兼ね四名の方が交代で入居者の相談相手になって頂いており貴重なアドバイスをいただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームの「ほのぼの便り」が月に1回発行されており、家族に配布されている。入居者の行事や日常生活の写真もふんだんに、ボランティアの訪問等のお知らせが紹介されている。また行事ごとの写真アルバムがあり、家族の面会時に閲覧できるようになっている。金銭管理については併設施設の事務職員が「お小遣い帳」を管理しており、毎月、請求書とともにレシートを家族のもとに送付し確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが新年会等、家族が集まる際に話し合いをしている。介護相談員と入居者との面談の報告書が併設施設のものとともに寄せられており、ホーム職員も必ず目を通し運営に役立っている。また、第三者委員会も設置されている。今のところ苦情等はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各入居者への担当制をとり職員を配置している。異動や離職がある場合には月1回配布されているグループホーム便りで報告をしている。定期異動時や新任の職員との引き継ぎは旧担当者と勤務の重複する期間を設け、入居者、家族に混乱が生じないようにしている。新任者の場合にはオリエンテーションとOJTにより業務への理解度を深めるようにしているので定着につながっている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の仕組みとして各職員の目標管理システムが導入されており、各自の目標にそってスキルを伸ばせるように管理者とのミーティングが年2回実施されている。法人長野エリアのQC活動も盛んで、年に一度の発表会に向けて職員全員で取り組んでいる。月に一度の定例職員会議も兼ね、「感染予防」や「認知症」などについての勉強会も実施している。資格取得に向けた併設施設での研修会にも参加しており、自己研鑽も含めた職員の向上心は非常に強い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人長野エリア内のグループホーム部会があり、情報の共有等を定期的に行っている。職員の交換研修も行われており、自己啓発に繋がっている。今後、地域の他グループホームとの相互交流を深めて行きたいという考えがあり、参加について前向きに検討されている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の老健やケアハウス、デイケア等、法人のサービスに馴染んだ利用者のホームへの入居希望も多く、安心と納得の上で開始している。自宅から直接申し込みをされる方には、家族とともに施設の見学をしていただき、一日数時間ホームでの生活を体験していただく等、馴染んでいただいているからの入居につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は食事作りやシーツ交換、居室のモップがけ、共有スペースの掃除等を入居者のできる範囲で行っている。日々の生活の中で料理の仕方や味付け、花への水遣り、野菜の作り方、しきたり・作法など入居者から教えていただく場面が多い。		

グループホームグレイスフル下諏訪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「年代別背景」、「すきなもののきらいなもの」等、面接時に得た細かな情報が「プロフィール表」に記入されている。また、入居後の本人の「つぶやき」から新たな面を発見した場合には追加記入後、職員全員で共有し意向の把握や支援に活かしている。現在の入居者には自分の思いを直接伝えることができる方が多い。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族と相談しながら方針を立て、介護計画書を作成している。家族にもカンファレンスへ参加して頂くように呼びかけており、参加が難しい時は電話や来訪時などに意向・要望を聞き、ホームを訪れた際に確認をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の援助目標の欄も具体的で分かりやすく、実現可能な表現がされており、モニタリングも毎月実施されている。3ヶ月目に最終評価を行い、継続か新たな目標を加えるか検討されている。「ケアチェック・ケアカンファレンス表」もきめ細かい構成で、問題点の把握から改善へむけての過程が明確になっており、変化の兆しへの予防や新鮮な目での見直しにつながっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の誕生日の夕食や要望に応じて職員が外出時に同伴している。また、家族の都合がつかない時には病院等への受診の付き添いも行っている。家族が宿泊したい場合には泊まることも出来る。		

グループホームグレイスフル下諏訪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を継続しており、異常等の場合には家族とも電話にて相談している。バイタルや排泄、入浴など健康に関しては日常的に気をつけており、併設施設の看護師に24時間相談できる体制がとられている。歯科衛生士の資格のある職員もおり、口腔ケアの面からも日頃から体調維持に留意がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りについては今のところない。ホームの出来る範囲での支援については入居時に説明がされている。入居者に変化が生じた場合にはカンファレンスを開き、家族、主治医、看護師を交え方針を話し合っている。併設老健や他施設に移る際にはケアの継続性に配慮し、様子を伝えたり退居指導書を作成し、情報提供を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会で「声掛け」などについて話し合い、意識向上を図っている。「プロフィール表」から名前の呼びかけも自然な「○○さん」などにしたり、記録された「利用者様のつぶやき」・「せりふ集」を活かし職員の日頃の対応を振り返っている。個人記録については漏洩防止や秘密保持の徹底が図られており、個人情報が含まれている文書等はシュレッダーにかけられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者の都合や体調などを考え臨機応変に取り組んでいる。開設当初から比べると入居者の高齢化に伴い即行動といわけには行かなくなってきたり、ホーム内や近辺での活動が多くなってきたりしている。入居者の「バックグラウンド」や「つぶやき」の中から情報を集め、本人の「やりたいこと」を見きわめ、納得した生活が送れるように支援している。		

グループホームグレイスフル下諏訪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の「すききらい」を把握し、献立を考える際には配慮している。食材の調達のため買い物へ交替で行くようにしている。調理や配膳、あと片付けも職員とともに行っている。献立については職員が立て、併設施設の栄養士に時々見てもらいアドバイスをいただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉がホーム内に引かれているため毎日入浴ができる。お風呂好きの入居者は必ず入浴している。入浴拒否の方もいるが、時間を空けてお誘いしたり、好きな時間に入ってもらうなどして2～3日に1回は入浴していただいている。入浴介助に関しては促す程度で着脱の支援が必要な方が若干名いる。安心して入浴していただくために毎日バイタルチェックも行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「つぶやき」・「プロフィール表」を基に趣味を活かして、習字や塗り絵、縫い物、散歩等、各入居者に合ったレクリエーションを行っている。調理、掃除、洗濯物干し・畳み、野菜づくり等、昔されていた得意分野で経験や智恵を発揮していただく場面も作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出たい時に、行きたい所へ自由に出かけることができる。以前、外出願望の強い入居者がいた時にも職員が付き添い、気のすむまで散歩していただいたことがある。少し離れた併設施設で開催される催しや中学生との交流にも希望者は参加し刺激を受けている。四季折々に近隣の名所旧跡へのドライブも行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中開放されており、職員は勉強会で鍵をかけることの弊害、鍵をかけないことで起こり得るリスクについて充分話し合っている。日中は声かけと見守り、様子の察知に留意し、万が一の安全のためのチャイム等で対応している。近所の方からも入居者一人の外出に不審を感じた時、ホームへ直接連絡をいただけるようになってきている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に避難訓練を行い、避難経路の確認や消火器の場所を確認している。昨年の春には区長、消防団、日赤奉仕団他、地域の関係者の協力を得て、ホーム独自の防災訓練を実施した。また、火災発生時のマニュアルの見直しも行った。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在の入居者については咀嚼、嚥下に問題等はみられないが、全般的に細かく刻んでいる。入居者の健康状態によっては補助食品を使う場合もある。また、栄養のバランスについては併設施設の栄養士に時々確認していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にベンチが設置されており、夏場は隣の神社の杉木立のほど良い木陰で涼風を受けながら歓談する入居者の姿が想像された。ホーム内には季節に合わせた絵画や入居者の習字、塗り絵の作品などが掲示されていた。和風の中庭には庭石が設置され、それを取り囲むように回廊が巡らされている。居間兼食堂にはソファを設置した談話コーナー、テレビの置かれた小上がりがあり、雑誌や新聞を読まれたり、気の合う仲間と談笑される憩いのスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーに配慮し各居室の入り口は居間兼食堂からは直接視えないように造作されている。居室には段差解消のための吊り戸式のドアが取り付けられており、備え付けのロッカーがある。筆筒、テレビ、座卓等の生活用品が置かれ、若い頃や家族、お気に入りの力士の写真等が壁面に飾られ家庭の延長線上での環境づくりがされている。入居者同志で居室に行き来し和やかに談話されている。		

※  は、重点項目。